

橋下「維新」許さない

労組事務所めぐるたたかい

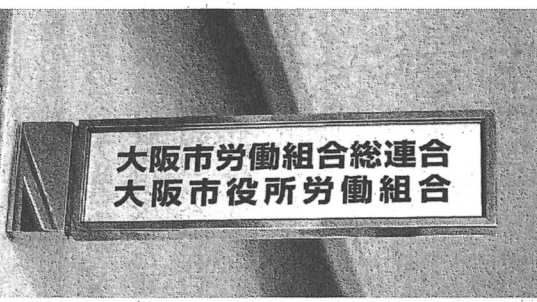
【中】

市民の運動と結び

大阪市役所労働組合（市労組）と市労働組合総連合（市労組連）は、橋下徹市長による一方的な事務所退去命令に応じませんでした。「おかしいじゃないか」「まだおろのか」と市民から電話がかかってきたこともあり、逆に、「残ってがんばってほしい」「励みになる」と激励の声も寄せられています。

退去命令後、各フロアを紹介する案内板から事務所の名前が消されてしまいました。事務所があるのは市

分断し、弱いところから切り捨てる攻撃に反対し、住民とともに運動し大きな役割を發揮してきました。市



事務所を知らせる看板

と毅然に政治恐怖

職員に向けられた「思想調査アンケート」にも毅然（きぜん）とたたかいました。大阪労連の普義人事務局長は「労働組合にとって、組合事務所は団結のとり」と強調します。

この4月には、公立保育所の保育士と幼稚園教員の給料を民間に「合わせ」て、民営化しやすくすることがねらわれました。公立保育園や幼稚園をなくさないでという保護者の願いと、「専門性を認めてほしい」「いい保育や教育がしたい」「そのために身分を保障してほしい」という保育士や教員の思いを重ねた運動を繰り広げました。

竹村副委員長はいいまします。「市職員が安心して働ける拠点がこの事務所。庁舎の中にあるからこそ、市職員に対する組合本来の仕事ができるんです。最高裁に上告を必ず受理させて、裁判に勝利します」

大阪労連は2012年2月、「労働者の権利侵害とたたかう闘争本部」を設置。公務・民間・地域が一体となって、橋下市長と維新の会による権利侵害を許さないたたかいをすすめてきました。市職員を励まそうと毎月、全区役所前での宣伝を実施。10月には46回目を数えています。

団結のとりでに

一方で心身を病む市職員が後を絶たず、家族の心配も募ります。市職員の母親が相談先を探して市庁舎内をあてもなくぐるぐるめ